

令和7年FCP若手フォーラムについて

令和7年 6月3日

総合ファシリテーター
山下安信
株式会社 フードサニテーション78

令和7年FCP若手フォーラムについて

1. FCP若手フォーラムの趣旨と目的
2. ファシリテーターの紹介
3. ワークショップを楽しみ、より有効に活用するコツ
4. FCP若手フォーラム 成果物について
 - (1) チーム成果物
 - (2) 個人目標



FCP若手フォーラムの趣旨と目的

【趣旨】

- 食品関連事業に携わる若手・中堅社員・職員を対象に、食の安全や消費者の信頼向上に関する知識やスキルを習得し、将来の業界や関係組織のリーダーの成長を支援する研修プログラムをめざす
- ご参加のみなさんに食品産業におけるさまざまな課題や取り組みを学び、実践的なスキルを身につける機会を提供する



FCP若手フォーラムの趣旨と目的

【目的】

- 食品業界の次世代を担う人材を育成する
- 食の安全・消費者の信頼向上への取り組みを継承する
- 多様な業種・部署の参加者によるネットワークを構築する

【参加対象者】

若手・中堅社員（職員）

業種・職種に限定なし

令和7年は品質管理、検査、製造、物流、製品開発、研究、マーケティング、行政等、幅広く参加



参加者は年間を通して同一人物で、原則、毎回出席

全チームにファシリテーター（FCP経験者）が加わり、助言する

FCP若手フォーラムの趣旨と目的

【スケジュール・会場※】

講演とワークショップ（4回）

第1回 6月3日（火）13時～17時 三田共用会議所 東京都港区三田2-1-8

第2回 7月15日（火）13時～17時 ニッポン本社 東京都千代田区麹町4-8

第3回 9月（予定）

第4回 11月ごろ（予定）

まとめ（チーム発表）の準備のみ（2回）

第5回 12月ごろ（予定）

第6回 1月ごろ（予定）

活動報告会（チーム発表） 2月（予定）

会場

東京・霞が関 農林水産省（省内会議室または周辺会議室）

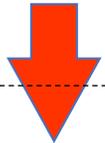
※スケジュール・会場は事情により変更になる場合があります



FCP若手フォーラムの趣旨と目的

【ワークショップの進行】

- 事前**
1. チームで次回のリーダー・サブリーダーを決めます
 2. 次回のテーマをもとに事前課題を出題します
リーダー・サブリーダーに締め切りまでに提出しましょう
 3. リーダー・サブリーダーはまとめてチーム内で共有し、事務局に提出してください



- 当日**
1. チームでリーダー・サブリーダーを中心に事前課題のテンプレートに従って、全員で協力して体験や意見を述べ合い、共有していきます
<経験豊富なファシリテーターのサポートもあります！>
 2. 意見を模造紙/付箋紙などに記録していきます
 3. 最後にチームで話し合った内容を発表しましょう



FCP若手フォーラムの趣旨と目的

【ワークショップを通して体験していただきたいこと】

- 食品産業の中のさまざまな取り組みや仕組みに触れて理解する
- グループワークに参加して意見を述べる
- グループワークをリードして進行する
- 自社の紹介・仕事を紹介する
- さまざまな意見から行動計画にまとめる
- 自社・組織に学んだことを伝える、仕事に役立てる

⇒フォーラムに参加するにあたり、学びたいことや身につけたいスキル、目標等を明確にして参加することで、身につけたいスキル※のための体験が可能になります

※スキル：自らの努力で獲得する技能や能力をいう



ファシリテーターの紹介

総合ファシリテーター

株式会社フードサンテーション78

山下 安信 氏
(やました やすのぶ)

アドバイザー

日本大学大学院

神井 弘之 氏
(かみい ひろゆき)

ファシリテーター

ライフフーズ株式会社

大澤 幸弘 氏
(おおさわ ゆきひろ)

ファシリテーター

安全衛生サポート

渡辺 敏雄 氏
(わたなべ としお)

ファシリテーター

株式会社ローソン

三森 伸二郎 氏
(みつもり しんじろう)

ファシリテーター

株式会社ニッポン

丹野 美和 氏
(たんの みわ)

ファシリテーター

ハウス食品グループ本社株式会社

折井 真人 氏
(おりい まひと)

ファシリテーター

株式会社シジシージャパン

岩井 弘光 氏
(いわい ひろみつ)

ファシリテーター

国分グループ本社株式会社

瀬川 恵寛 氏
(せがわ ともしげ)

ファシリテーター

ネオジェンジャパン株式会社

堀 景太 氏
(ほり けいた)

ファシリテーター

株式会社Mizkan Partners

篠田 太郎 氏
(しのだ たろう)

サブ・ファシリテーター

兼松食品株式会社

秋山 誠一郎 氏
(あきやま せいいちろう)

サブ・ファシリテーター

三菱食品株式会社

石田 悠二郎 氏
(いしだ ゆうじろう)

サブ・ファシリテーター

株式会社生活品質科学研究所

井口 花音 氏
(いぐち かのん)

アドバイザー

株式会社アンデルセン・パン
生活文化研究所

大西 由美 氏
(おおにし ゆみ)

ワークショップを楽しみ、より有効に活用するコツ

【ぜひ、みなさんにチャレンジして欲しいこと】



1. FCP（産官学協働のプラットフォーム）の取り組みを理解する
2. 若手フォーラムの魅力(規模) を体感し、みなさんの新しいネットワークをつくる
3. 参加メンバーとの意見交換を通して、考え方や視野を広げる
4. ワークショップを通して、個人目標を設定し、スキルアップにチャレンジする

ワークショップを楽しみ、より有効に活用するコツ

【よくいただく質問】

- Q1. ワークショップにはどのように参加すればいいのか
- Q2. ルーチンの仕事とどう両立させればいいのか
- Q3. 自分のキャリアアップにどう役立てればいいのか
- Q4. 上司にお願いしたい参加者（部下）のサポートとは



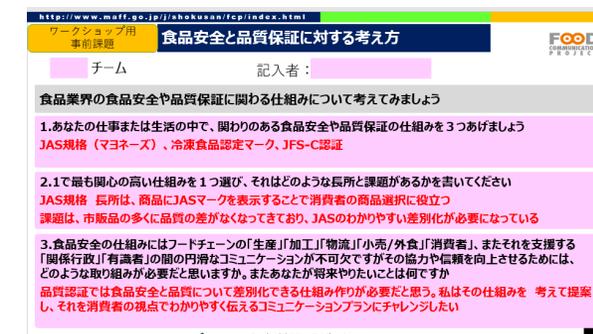
Q1. ワークショップにどのように参加すればいいのか

若手フォーラムでご自分の視野とネットワークを広げましょう。
主体的に参加することで、ご自身が求めているスキル（技能や能力）を伸ばし、磨いていくための機会として有効に活用できます

事前準備

- 事前課題にはご自分の生活、組織とその周囲、必要に応じて関係者の話やネットで調べて、テンプレートに書き込みます
- チームで決めたその回のリーダー・サブリーダーに、メールで提出します
- チームメンバーのまとめがメールで届いたら、時間があるときに目を通しましょう

事前課題シート



例1.食の安全・安心に関わるリスクの関心事を5つあげてみましょう

Q 1. フォーラムにどのように参加すればいいのか

当日

- チームの中で、全員が意見を述べて、話し合しましょう
- 意見は、チームごとに1.チームでリーダー・サブリーダーを中心に、会場のテーブルにある模造紙/付箋紙などに記録していきます最後に代表から、チームで話し合った内容を発表していただきます

後日

- 機会をみつけて、職場や友人にも話題を提供してみましよう
(視野が広がり、新しいアイデアが生まれるかもしれません)



Q 1. フォーラムにどのように参加すればいいのか

ワークショップを活用するポイント（FCP経験者の例）

1. グループメンバーを把握する（仲間を知る）
2. ワークショップのテーマを理解する（事前に情報を整理しておく）
3. 事前課題に取り組む（戦略を練り、戦術を具体化する）
4. ワークショップのメンバーと交流する（視野を広げる）
5. 協働の機会点を探し行動を考える（スキルをみがく）



Q2. ルーチンの仕事とどう両立させればいいのか



ルーチンのお仕事を最優先させてください。そして、自分で時間を作り、事前課題に取り組み、フォーラムに参加することがとても重要です。

- みなさんは毎日、いくつも仕事をこなしていらっしゃると思います。役職に応じて、関係者や関係先と一緒に取り組むタスクフォースやプロジェクトチームに参加する機会も増えます。ルーチンの仕事とは、別に取り組む仕事も生まれます。
- 緊急事案や優先課題が発生した場合には、仕事全体を見渡して緊急性や重要性からバランスをとって取り組むことが要求されます。
- 若手フォーラムは、将来、みなさんにとって重要な経験になります。**できる限り積極的に参加いただき、仕事に多様に対処する経験に是非チャレンジしてください。**

Q3. 自分のキャリアアップにどう役立てればいいのか

キャリアアップとは、「より高い能力を身につけて、**経歴を高めること**」をいいます。次代を担う若手スタッフのみなさんが1つ1つご自分の努力で経験を積む中で、スキル（技能や能力）を高め、磨いていくことでキャリアアップが達成されます。またそれは組織の成長と社会の進化につながります。

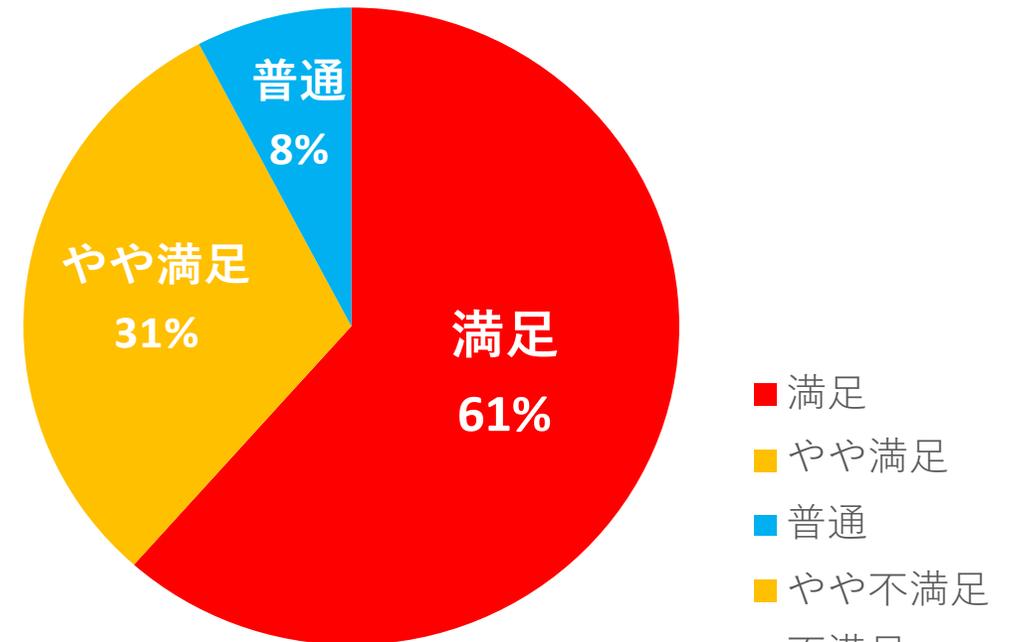


- FCP若手フォーラムでは、みなさんに是非、**チャレンジしたい目標とスキルを設定していただき、6回のワークショップと活動報告会（チーム成果物）、そして個人目標（個人成果物）を通してチャレンジしてみてください。**経験豊富なファシリテーターがみなさんをお迎えし、キャリアアップを応援します。

Q4. 上司にお願いしたい参加者（部下）のサポートとは

FCP若手フォーラムは、参加者のみなさんに個人目標を設定いただき、もし可能ならば上司や職場の方々と共有し、フィードバックを受けることで、1年間の成長の「見える化」に取り組んでいます。

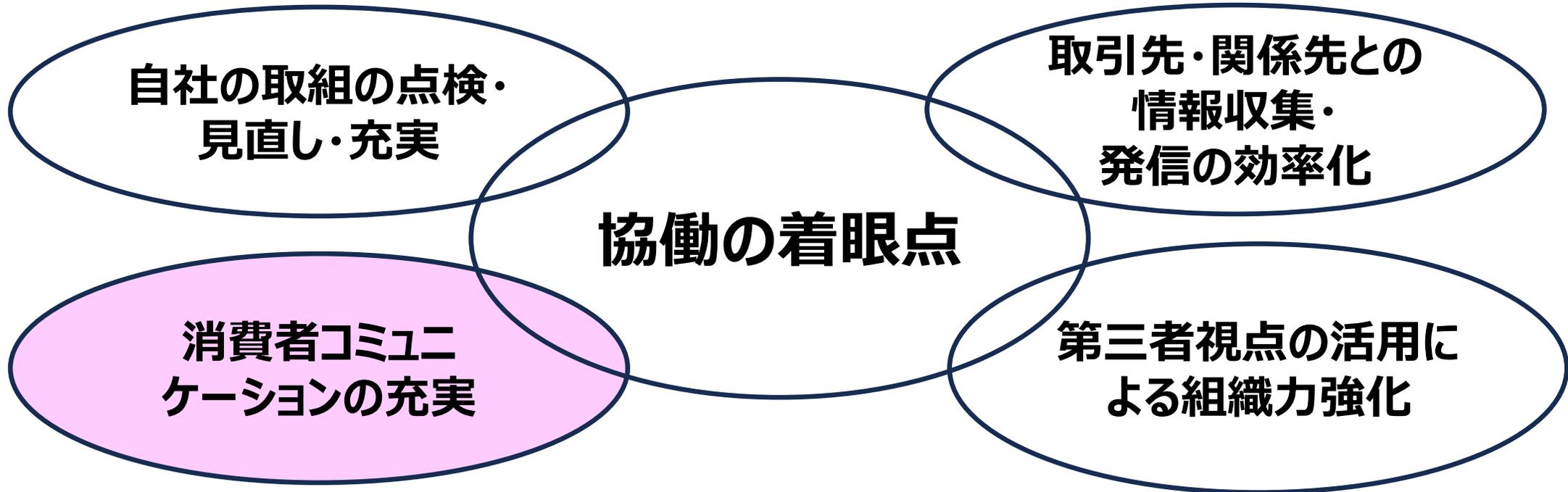
- ご参加の企業・団体（上司）へのアンケート調査では、9割以上の方から「満足」「やや満足」の評価をいただいています。



若手フォーラムへの満足度
（ご参加いただいた企業・団体（上司）への
アンケート調査より 令和4年若手フォーラム）

Q4. 上司にお願いしたい参加者（部下）のサポートとは

- FCPでは協働の着眼点のキーワードとして、「情報収集」「自社取組の点検」「第三者視点の活用」「消費者コミュニケーション」があります。若手フォーラムへの参加を機会に、FCPとそのツールを見てみましょう。



Q4. 上司にお願いしたい参加者（部下）のサポートとは



- また、若手フォーラムが提案するチャレンジの1つに、リーダーシップがあります。そこには一般的な次のスキル（能力）が要求されています

リーダーシップに要求されるスキル（能力）

スキル（能力）	内容（例）
専門性と汎用性	職務の分野を深い知識と経験で精通する能力とさまざまな方面で対応できる知識と経験をもって総合職や管理職に役立てる能力
コミュニケーション能力	相手の立場で考え、スムーズに意思疎通できる能力 どのような立場の相手ともコミュニケーションを取って信頼関係を築き、 仕事に対する価値観や方向性を近づけていく能力

Q4. 上司にお願いしたい参加者（部下）のサポートとは

リーダーシップに要求されるスキル（能力）

スキル（能力）	内容（例）
傾聴力	異なる意見を持つ相手との会話を進めお互いを理解していく能力
交渉力	お互いが納得する結果が出せるような話し合い、互いが納得できるゴールまで導くことができる能力
問題解決能力	実務で起きた問題を解決する責任能力で、社会や組織の仕組みを深く理解し失敗や反省を重ねる経験が重要になる

Q4. 上司にお願いしたい参加者（部下）のサポートとは

リーダーシップに要求されるスキル（能力）

スキル（能力）	内容（例）
主体性	自ら重要な決断を下し、設定した目標を達成する能力で、必要な下調べやチーム編成、プラン策定などに自発的に取り組むことで解決できる
誠実さ・信頼性	仕事上の付き合いや決断で常に誠実さをもって行動を、期限を厳守したスケジュール管理、謙虚な姿勢で自らの責任を認めることができる能力で実行できる

- もし可能ならば上司や職場の方々からは参加者（部下）には若手フォーラムで身につけたスキルを仕事の中で活用していく努力を評価いただき、またみなさまのご経験からのアドバイスをお願いします。

FCP若手フォーラム 成果物について

FCP若手フォーラム 最終成果物は2つ

- **チーム成果物（第5回～活動報告会までに資料を作成）**

フォーラム内で学んだことを踏まえチームでテーマを決め、活動報告会で発表します
※詳しくはワークショップの中でご説明します

- **個人成果物**

- ① 目標設定（第1回事後課題）

フォーラムで学びたいこと、自身の目標等を決め、参加しましょう

- ② 振り返り（活動報告会事後課題）

フォーラム全体を振り返り、目標に対する評価や仕事に活用すること、今後のビジョン等をまとめましょう

◇個人成果物の取り扱い

- ① 目標設定を 第1回フォーラム開催後に
- ② 振り返りを 全回終了後に作成し、FCP事務局にご提出いただきます

➤ 個人成果物は、活動報告会での発表等、一切公表はいたしません
(フォーラムの企画や運営の参考にさせていただきます)

◇記入内容

① 目標設定 (第1回事後課題)

- ・チームの年間目標 (是非、チームで取り組みたい目標)
- ・個人の年間目標 (若手フォーラムで学びたいこと、身につけたいスキル等)
- ・ワークショップに取り組むにあたってのプラン
- ・若手フォーラムでの学びと経験のフィードバック

チーム名

氏名

目標設定

1. 若手フォーラム・チームの年間目標について
2. 若手フォーラムの個人の年間目標について
3. 若手フォーラム・ワークショップにどのように取り組んでいきますか
4. 若手フォーラムの学びや経験をどのように職場にフィードバックしていきますか

個人目標（1枚目）

提出期限 6月27日（金）

提出先 FCP事務局

チーム名		氏名	
------	--	----	--

◆若手フォーラム・チームの年間目標について	
①目標	②振り返り
◆若手フォーラムの個人の年間目標について	
①目標	②振り返り
◆若手フォーラム・ワークショップにどのように取り組んでいきますか	
①目標	②振り返り
◆若手フォーラムの学びや経験をどのように職場にフィードバックしていきますか	
①目標	②振り返り

◇記入内容

②振り返り（活動報告会の事後課題）

- ・①で立てた目標に対する評価（5段階評価、頑張った点・苦労した点）
- ・若手フォーラムで学んだことを自身の業務にどう活かすか
- ・今後頑張りたいことは何か、（課題、目標、キャリア等）



若手フォーラムに参加するにあたり、明確な目標を持って参加し、フォーラム後にはしっかりと振り返りを行うことで自身の成長につながります(*'▽')

自社で業務報告や成果報告をする際にもお使いください！

令和7年度 FCP若手フォーラム 個人成果物②

◇ 1年間を振り返り、会得できたと思うスキル、当初の目標に対しての成果等を確認しましょう

スキル	自己評価	頑張った点/苦労した点
FCP活動と取組みを理解する	1 2 3 4 5 0	
グループワークで意見を述べる	1 2 3 4 5 0	
グループワークをリードする	1 2 3 4 5 0	
自社の仕事を説明する	1 2 3 4 5 0	
さまざまな意見からとりまとめる	1 2 3 4 5 0	
自社に学んだことを伝える	1 2 3 4 5 0	

自己評価は1～5の5段階で評価してください
 ※ 5:身についた 4:やや身についた 3:どちらともいえない
 2:あまり身につかなかった 1:身につかなかった

◆ 若手フォーラムでの経験を踏まえこれからチャレンジしたいと思うこと（課題、今後の目標・キャリアプラン等）

第1回若手フォーラム ワークショップ^①（チーム内交流）

令和 7年 6月 3日

総合ファシリテーター
山下安信
株式会社 フードサニテーション78

第1回FCP 若手フォーラム

テーマ：「食」への信頼を創る

【目的】

1. FCP（産官学協働のプラットフォーム）の取り組みを知る
2. 参加メンバー全員と交流し、若手フォーラムの魅力（スケールの大きさ）を体感する
3. 参加メンバーとの意見交流の手順を体験する

【進行】

- | | |
|------------------|------------------|
| ワークショップ1（チーム内交流） | 14:40～15:55（75分） |
| ● ワークショップ | 14:40～15:25 |
| ● チーム発表 | 15:25～15:55 |
| 第2回若手フォーラムについて | 15:55～16:05（10分） |
| ワークショップ2（チーム間交流） | 16:05～16:55（50分） |
| ● 名刺交換会 | |



第1回FCP 若手フォーラム

チームごとの交流

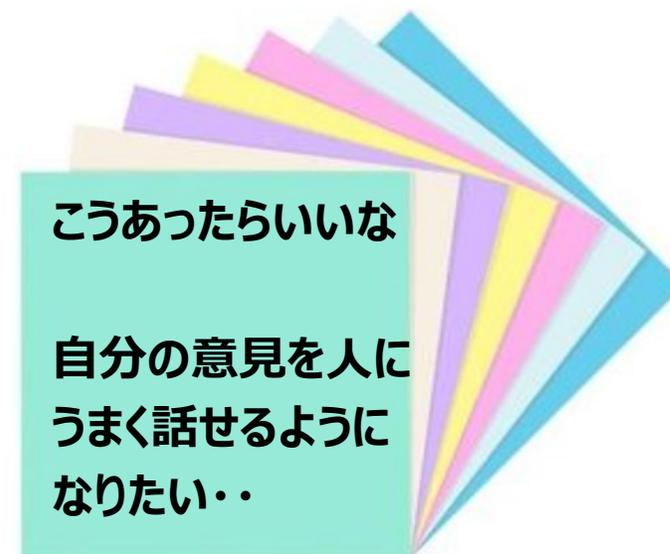
自己紹介（1人1分程度）：10分

自由に意見交換：30分

- 参加のきっかけ
- FCPで興味をもったこと
- FCPで話し合いたいこと
- 社内／取引相手先／消費者とのやりとりで困ったこと
- こうあったらいいなと思うこと
- 最近面白いと感じていること
- 今、やり方を模索していること など

付箋紙に書いて模造紙に適宜貼り付けていく

※発表者、第2回目リーダー・サブリーダーを決定しておく



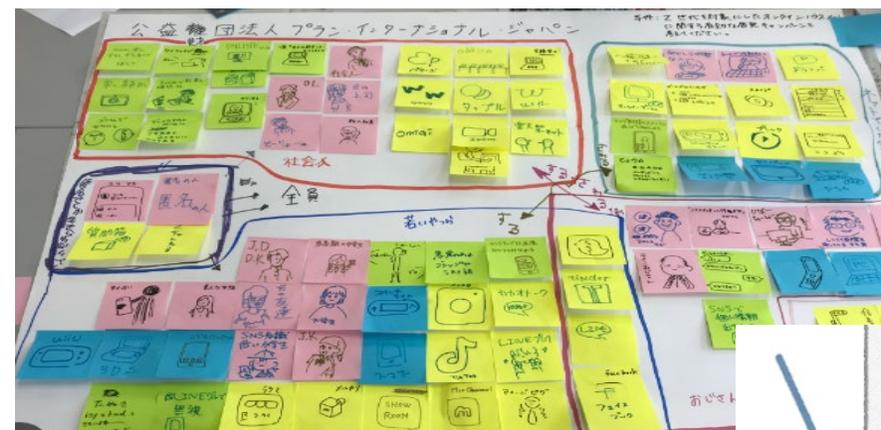
第1回FCP 若手フォーラム

チームごとの交流

チーム発表 : 各チーム3分

チームで出た意見・考えを全体に共有する

発表は模造紙を有効に活用する



第2回若手フォーラム 事前課題

第2回若手フォーラム：令和 7年 7月15日

総合ファシリテーター
山下安信
株式会社 フードサニテーション78

第2回若手フォーラム 事前課題

第2回若手フォーラム（7月15日）

テーマ：食の安全・安心について考える

《食の安全・安心に関わるリスクアナリシス活動について》

講演1	食の安全はリスクを正しく理解することから	食の安全と安心を科学する会（SFSS） 理事長 DVM, Ph.D. 山崎 毅 先生
講演2	ニッポンの取り組みについて（仮）	(株)ニッポン 品質保証部 齋藤 浩二 部長

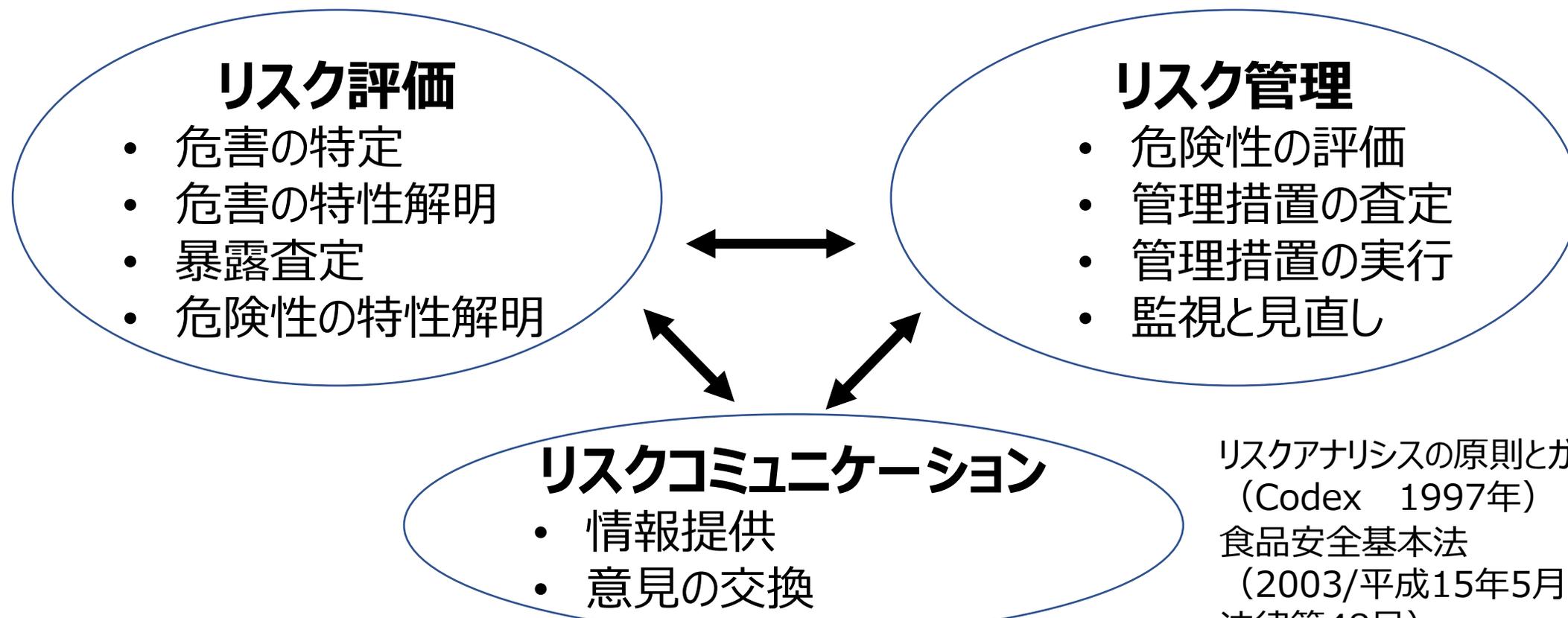
ワークショップのねらい：

- 食品業界における食品安全や品質保証に関わる仕組みとその背景を理解する
- 参加者の所属先や職務から、その仕組みとの関わりと、自分の考えや意見を話し合う
- 参加者が直接/間接的に関わるフードチェーンの中で、どのように協力しまたは支援することで、消費者に対する食の安全が確保できるのかを話し合う

第2回若手フォーラム 事前課題

食品安全のリスクアナリシス（リスク分析）

- 食品のリスクを科学的に評価し、適切な管理措置を講じるための一連のプロセス
- 食品衛生・安全管理において国際的にも広く採用されている枠組み



リスクアナリシスの原則とガイドライン
(Codex 1997年)
食品安全基本法
(2003/平成15年5月23日
法律第48号)

第2回若手フォーラム 事前課題

食品安全のリスクアナリシス（リスク分析）

	リスク分析	リスク管理	リスクコミュニケーション
国	農薬の安全性を科学的根拠に基づいて評価する	リスク評価に基づき、農薬の使用や流通に関するルールを設定・運用する	農薬の安全性や規制内容について、消費者・生産者・業界・行政・専門家間で情報を共有する
企業	自社の製品や工程に存在する病原微生物の危険性とリスクの大きさを評価する	リスク評価に基づいて、微生物リスクを低減・排除するための管理措置を講じる	従業員・取引先・消費者と微生物リスクに関する情報を共有・対話する
個人	個人レベルでの健康食品のリスクや自分にとっての影響を見極める	リスクを評価したうえで、健康食品を安全に使用するための判断と行動を行う	自分だけで判断せず、家族・医療従事者・友人などと情報を共有し、客観的な意見を得る

チーム

記入者：

食の安全・安心に関わるリスクアナリシス活動について考えてみましょう

1.食の安全・安心に関わるリスクの関心事を5つあげてみましょう

2.1.の関心事から1つ、「自社/組織」または「他社」の取り組みで (A)リスク評価、(B)リスク管理、(C)リスクコミュニケーションについて具体例をあげてみましょう

3.2.の「自社/組織」または「他社」のリスクアナリシス活動から、「強み」と「機会点」について分析してみましょう

X チーム

記入者： 大里 綱与

記入例

食の安全・安心に関わるリスクアナリシス活動について考えてみましょう

1. 食の安全・安心に関わるリスクの関心事を5つあげてみましょう

病原微生物、食品添加物、残留農薬、放射性物質、PFAS

2. 1.の関心事から1つ、「自社/組織」または「他社」の取り組みで (A)リスク評価、(B)リスク管理、(C)リスクコミュニケーション、(D)その他 について具体例をあげてみましょう

他社 病原微生物

(A) リスク評価：「冷凍塩麴唐揚げ」の鶏肉（原材料）由来の病原微生物（危害要因物質）を管理できる条件を決めている

(B) リスク管理：製造工程の中で加熱・殺菌条件を維持（管理）する

(C) リスクコミュニケーション：製造の作業員に作業手順をトレーニングする、食品表示や商品情報の中で、消費者（お客様）に使用方法（解凍後加熱調理すること）を伝える

(D) その他： リスク管理の変更に合わせて、HACCP計画（衛生管理計画）を更新する

3. 2.の「自社/組織」または「他社」のリスクアナリシス活動から、「強み」と「機会点」について分析してみましょう **他社 病原微生物**

「強み」：製品ごとの「リスク」と品質の高い「原材料」を意識することで、品質を向上することができる

「機会点」：原材料の調達事情が変化する中で、鶏肉（原材料）の規格の変更に対応していく

Y チーム

記入者： 山崎 毅

記入例

食の安全・安心に関わるリスクアナリシス活動について考えてみましょう

1. 食の安全・安心に関わるリスクの関心事を5つあげてみましょう

食物アレルギー、賞味期限／消費期限、原料原産地表示、残留農薬、PFAS

2. 1.の関心事から1つ、「自社/組織」または「他社」の取り組みで (A)リスク評価、(B)リスク管理、(C)リスクコミュニケーション、(D)その他 について具体例をあげてみましょう

自社 残留農薬

(A) リスク評価：原料農作物の栽培時に使用した農薬と、そのリスク評価データ（ADI、ARfDなど）を確認。原材料規格に残留農薬基準を組み込む。

(B) リスク管理：年に1回の原材料受け入れ時モニタリング調査（残留農薬分析）を実施する

(C) リスクコミュニケーション：消費者（お客様）のお問い合わせに対して、リスク評価・リスク管理の状況やデータについて誠実に回答し、心配無用であることをお伝えする。

(D) その他：農薬の使用状況が変更するたびに、リスコミ内容を更新する

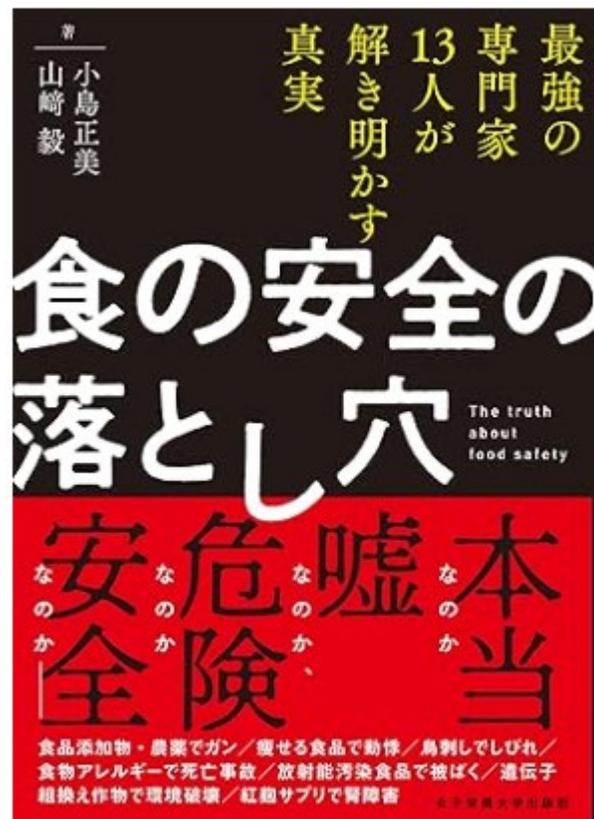
3. 2.の「自社/組織」または「他社」のリスクアナリシス活動から、「強み」と「機会点」について分析してみましょう

自社 残留農薬

「強み」：製品ごとに残留農薬の「リスク評価」「リスク管理」「リスコミ」のフローが確立している。

「機会点」：残留農薬のモニタリング試験において基準値を超えた場合の対応が、未確立であいまい。

食の安全・安心について考える



食の安全の落とし穴：最強の専門家13人が解き明かす真実

小島正美、山崎毅 著
女子栄養大学出版
1400円（税別）

- 食中毒から食品添加物、食物アレルギー、放射能まで一般市民の素朴な食品安全のギモンについて1冊で幅広くフォロー。
- 解説は、食品安全の各ジャンルのトップランナー13人。最先端かつ信頼できる食のリスクの真実がつかめます。

【最強の専門家13人】

- 1 食品添加物 畝山 智香子 国立医薬品食品衛生研究所 客員研究員
- 2 食品の残留農薬 原田 孝則 (一財)残留農薬研究所 理事長
- 3 遺伝子組換え食品 田部井 豊 東洋大学 食環境科学部 客員教授
- 4 食の放射能汚染 田内 広 茨城大学 理学部 教授
- 5 ノロウイルス 野田 衛 国立医薬品食品衛生研究所 客員研究員
- 6 カンピロバクター 中村 寛海 (地独)大阪健康安全基盤研究所 主幹研究員
- 7 リステリア 五十君 静信 東京農業大学 食品安全研究センター長 教授
- 8 サルモネラ 大河内 美穂 キューピー株式会社 品質保証本部食品安全科学センター次長
- 9 アニサキス 杉山 広 国立感染症研究所 客員研究員
- 10 食物アレルギー 海老澤 元宏 国立病院機構相模原病院 臨床研究センター長
- 11 トランス脂肪酸 後藤 直宏 東京海洋大学 海洋生命科学部学部長 教授
- 12 健康食品 宗林 さおり 岐阜医療科学大学 薬学部 教授
- 13 食品のリスクアセスメント 山本茂貴 内閣府食品安全委員会 委員長

**第1回若手フォーラム
ワークショップ²
（チーム間交流（名刺交換会））**

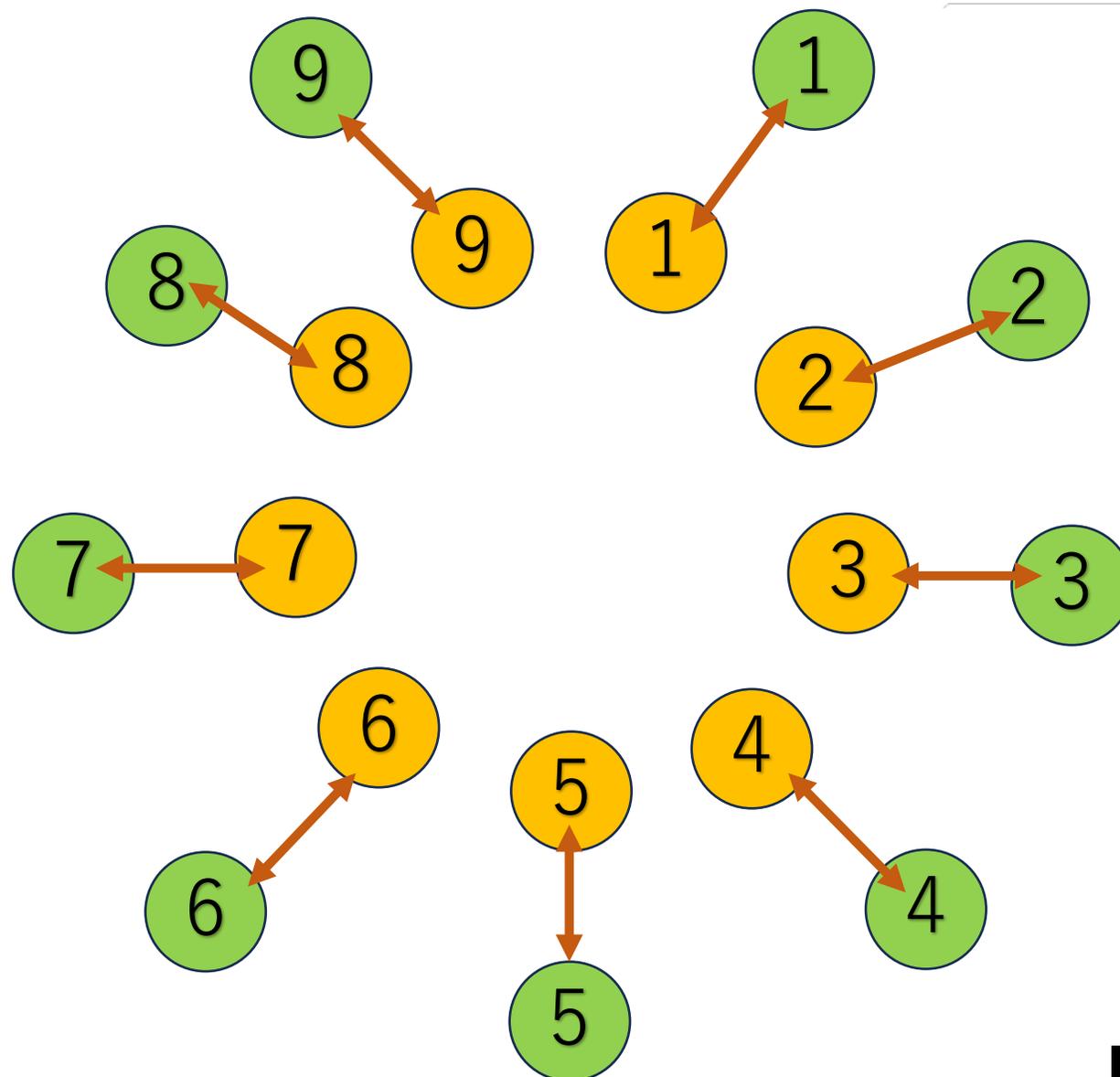
令和 7年 6月 3日

FCP事務局

チーム間の交流（名刺交換）

2チームで2重の輪を作り、チーム同士で名刺交換します

- ・ご挨拶のお時間はお一人あたり30秒です。20秒で呼鈴を1回、30秒で2回鳴らします。
60名以上の方とお名刺交換をしますので、
時間厳守をお願いいたします。
- ・30秒で呼鈴が2回鳴ったら、外側のチームの方は時計回りに一人分ずれてください。
- ・1周し、9人と名刺交換が終わったら、交換相手のチームを入れ替えます。



チーム間の交流（名刺交換）



自分のチーム		A	B	C	D	E	F	G
交換場所		1 (内側)	2 (内側)	3 (内側)	移動	移動	移動	移動
1周目	交換相手	D	E	F	A	B	C	チーム内
2周目		E	F	G	チーム内	A	B	C
3周目		F	G	D	C	チーム内	A	B
4周目		G	D	E	B	C	チーム内	A



自分のチーム		A	B	C	D	E	F	G
交換場所		1 (内側)	移動	移動	2 (内側)	移動	3 (内側)	移動
5周目	交換相手	B	A	チーム内	E	D	G	F
6周目		C	チーム内	A	G	F	E	D



自分のチーム		A	B	C	D	E	F	G
交換場所		移動	1 (内側)	移動	2 (内側)	3 (内側)	移動	移動
7周目	交換相手	チーム内	C	B	F	G	D	E

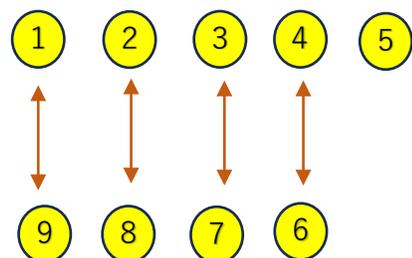
・7チームありますので、6チームで3つの2重の輪をつくり、残りの1チームはチーム内での名刺交換のお時間となります。

・4周目までは、A、B、Cのチームは動かず（固定）、D、E、F、Gのチームが移動し、名刺交換します。

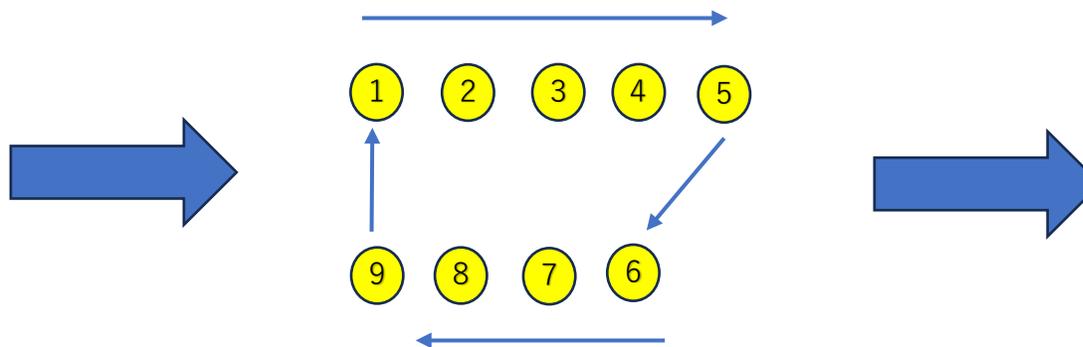
・5周目・6週目はA、D、Fのチームは動かず（固定）、B、C、E、Gのチームが移動し、名刺交換します。

・7周目は左の通りです。

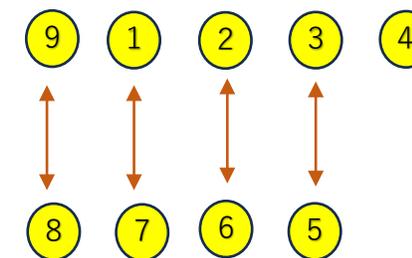
チーム内の交流（名刺交換）



5人对4人で並びます。
正面の方と名刺交換を
します。
(⑤の方は待ち時間)



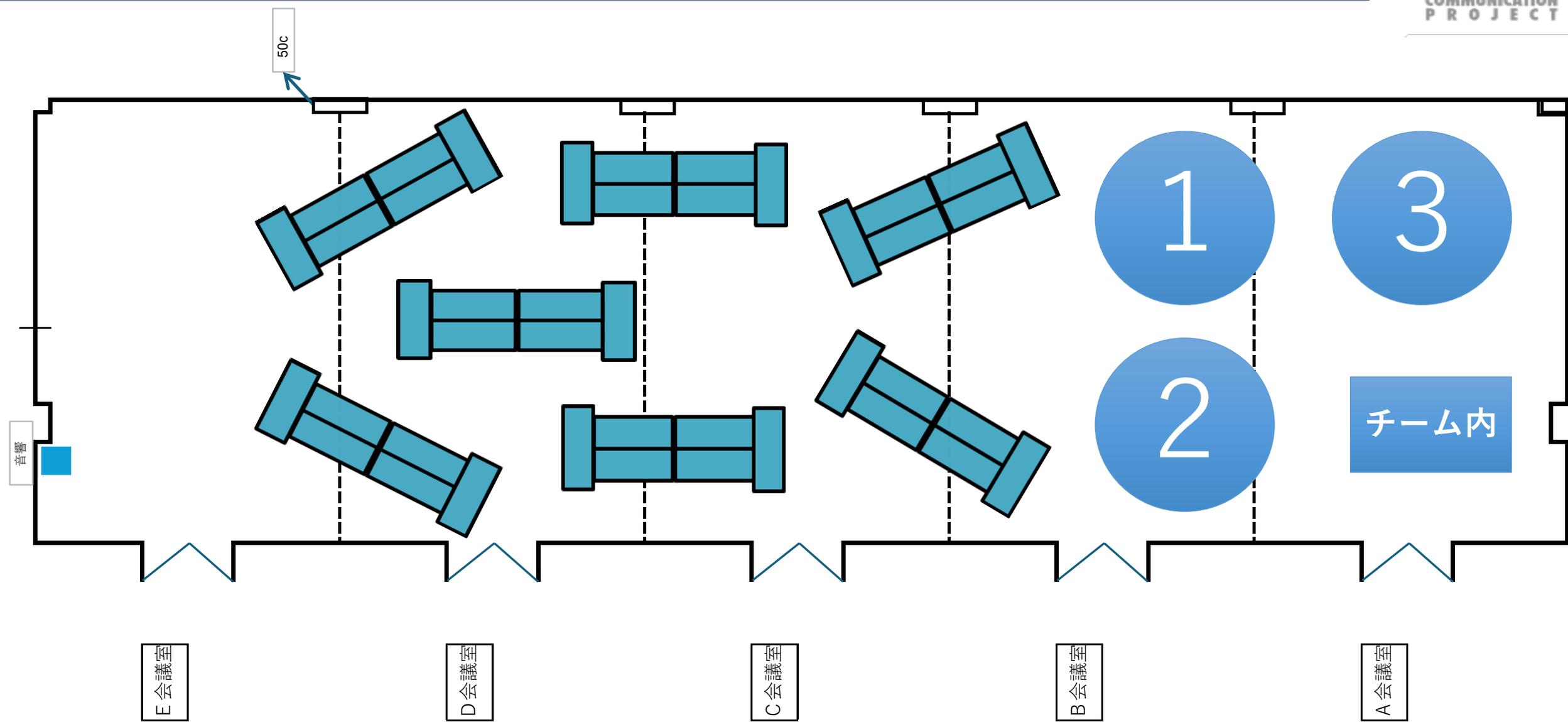
30秒で呼鈴が2回鳴っ
たら、時計回りにずれま
す。



正面の方と名刺交換を
します。
(④の方は待ち時間)

繰り返して、全員（8人）と名刺交換します。

名刺交換の場所



第1回若手フォーラム ワークショップ2 (チーム間交流 (名刺交換会))

(参考) 名刺交換の仕方

- 両手で扱う
- 文字が隠れないように端を持つ
- 折り曲げたり、汚したりしないようにする
- 相手の名刺は胸より上の位置で扱うように心掛ける

ファシリテーターからのアドバイス

- あとで名刺の片隅に聞いたことをメモしておく
& 思い出しやすい
- 特に同業の参加者とは面識をもっておくこと



【再投影】 名刺交換のチーム組

自分のチーム		A	B	C	D	E	F	G
交換場所		1 (固定)	2 (固定)	3 (固定)	移動	移動	移動	移動
1周目	交換相手	D	E	F	A	B	C	チーム内
2周目		E	F	G	チーム内	A	B	C
3周目		F	G	D	C	チーム内	A	B
4周目		G	D	E	B	C	チーム内	A



自分のチーム		A	B	C	D	E	F	G
交換場所		1 (固定)	移動	移動	2 (固定)	移動	3 (固定)	移動
5周目	交換相手	B	A	チーム内	E	D	G	F
6周目		C	チーム内	A	G	F	E	D



自分のチーム		A	B	C	D	E	F	G
交換場所		移動	1 (固定)	移動	2 (固定)	3 (固定)	移動	移動
7周目	交換相手	チーム内	C	B	F	G	D	E

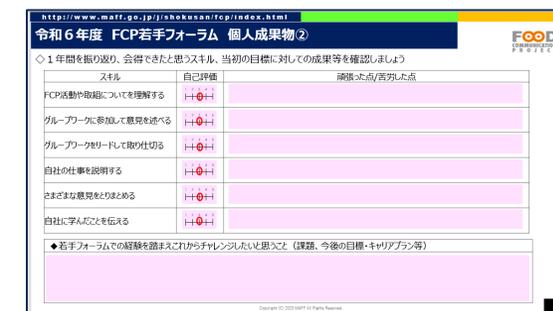
令和7年 6月 3日

FCP若手フォーラム

1. 提出物

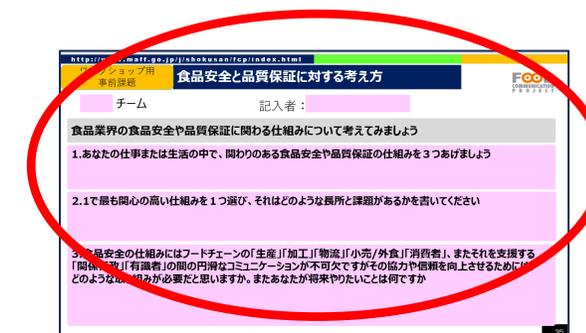
(1) 個人目標 (2枚のうち1枚)

提出期限 6月27日
提出先 FCP事務局



(2) 第2回事前課題 (1枚)

提出期限 7月4日
提出先 チームリーダー



2. 第2回若手フォーラム 7月15日 (火) (予定)